

2024 年度
事業計画書

学校法人 行吉学園

目 次

1	学校法人第2次中期目標・中期計画について	p.2
2	中期目標・中期計画に基づく2024年度の行動計画	
I	教育・研究の充実	p.4
II	学生支援の充実	p.5
III	社会貢献の推進	p.7
IV	DXの推進	p.8
V	広報・募集力の強化	p.9
VI	経営・組織力の強化	p.9
3	法人の体制	p.11
I	設置する学校・学部・学科等(2024年度予定)	p.11
II	役員の概要(2024年4月1日予定)	p.12
III	教職員の概要(2024年4月1日予定)	p.12
IV	組織機構図(2024年4月1日予定)	p.13

1. 学校法人行吉学園第2次中期目標・中期計画について

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通して女性の自主自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきました。

2019年度から2023年度までの「行吉学園中期目標・中期計画」では、教育内容の向上、教育課程の整備、学生支援体制の充実、大短一体化の推進などの目標の下、計画を実行し、一定の成果を上げてきました。しかし一方で新型コロナウイルス感染症の流行等により、計画変更を余儀なくされた項目や、進捗管理体制における課題も出てまいりました。また、大学評価機関における認証評価において指摘された課題もあります。

社会の現状や変化においては、少子化の進行による18歳人口の減少、また女子受験生の進学希望分野の変化などにより、本学もまた学生数の減少、財政環境の悪化など非常に厳しい状況にあります。

そのような状況の中、本学園がこれまでに積み重ねてきた丁寧な教育を基本としつつ、これからの社会で活躍するための力を身につけた卒業生を輩出し、社会に求められる学校法人であり続けることを目指すため、2024年度から2028年度の期間において、特に重点的に達成すべき目標とその実現のための計画として「行吉学園第2次中期目標・中期計画」を策定しました。策定にあたり、認証評価にて指摘された課題への対応を行う計画を加え、計画を確実に実行するために、実施体制の見直しも行いました。この中期目標を達成すべく、今後5年間において各年度の計画実行とその達成状況の確認および改善のプロセスを通じて、より実効性のある計画を進めてまいります。

学校法人 行吉学園 第2次中期目標・中期計画（2024~2028）

【建学理念・教育目標】

建学の精神：本学の教育は、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献する有為な女性の育成にある。そのためには、人格の完成をめざし、平和的な国家および社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成に力をつくすにある。

教育目標：自立心・対話力・創造性

【基本目標】（2024~2028）

学ぶ楽しさが見つけられる環境の中で一人ひとりの知性や教養を高め、多様な価値観や考え方を尊重できる女性を育成する。

<p style="text-align: center;">【戦略的柱】 (計画統括責任者)</p> <p style="text-align: center;">柱毎の目標</p>	<p style="text-align: center;">【I. 教育・研究の充実】</p> <p>建学の精神および本学の教育目標である「自立心・対話力・創造性」とそれらを予測不可能な時代に発揮するために必要な力を伸ばす教育を行う。</p>	<p style="text-align: center;">【II. 学生支援の充実】</p> <p>多様な学生が充実した学生生活を送るために必要な支援体制の充実および卒業後も私らしく生きるための支援を行う。</p>	<p style="text-align: center;">【III. 社会連携の推進】</p> <p>学生の社会連携活動や教育研究成果の社会還元を通して社会に求められる大学としてのあり方を追求する。</p>	<p style="text-align: center;">【IV. DXの推進】</p> <p>DXにより、多様な学生の学びの支援や、学生サービスの質の向上を目指す。</p>	<p style="text-align: center;">【V. 広報・募集力の強化】</p> <p>アドミッション・ポリシーに則り、戦略的な広報や入試制度改革等を通じて、入学者を確保する。</p>	<p style="text-align: center;">【VI. 経営・組織力の強化】</p> <p>教育研究活動の維持・発展を支えるため、経営体制の改善、組織力の強化を進める。</p>
	<p style="text-align: center;">1. 教育内容の充実</p> <p>予測不可能な時代において、個として「確かに生きるための力」を身につけられる教育内容の充実を図る。</p>	<p style="text-align: center;">1. 学生生活環境の充実</p> <p>多様な学生が安心して学業を継続できる支援体制を充実させる。居心地が良く活気のある学生生活を過ごせる環境を整備する。</p>	<p style="text-align: center;">1. 学生主体の地域連携活動推進</p> <p>地域や社会連携活動を通じて、学生の主体性、社会性を育む。</p>	<p style="text-align: center;">1. DXによる教育の充実</p> <p>デジタルツールを活用した学修支援を推進する。</p>	<p style="text-align: center;">1. ブランディング確立と学園広報力強化</p> <p>「選ばれる大学」となるためのブランディング確立と全学的な学園広報力を強化する。</p>	<p style="text-align: center;">1. 財政基盤の安定化</p> <p>教育活動を維持・発展させるために経営体制を改善し、財政基盤を安定化させる。</p>
	<p style="text-align: center;">2. 教学マネジメントの確立</p> <p>教育内容の充実を十全に図り、教育の質保証を実現するために、教学マネジメントを確立する。</p>	<p style="text-align: center;">2. キャリア支援の強化</p> <p>キャリア教育と就職・進学支援の強化により、進路満足度の向上を図る。</p>	<p style="text-align: center;">2. 国際連携活動の充実</p> <p>国際連携活動を通じて、学生が主体的に国際性や多様性を涵養する。</p>	<p style="text-align: center;">2. DXによる学生サービスの質の向上</p> <p>ICT技術を活用した学生サービスの向上を目指す。</p>	<p style="text-align: center;">2. 志願者・入学者の安定的な確保</p> <p>学生募集力の強化により志願者と入学者を安定的に確保する。</p>	<p style="text-align: center;">2. 組織力の強化</p> <p>意思決定プロセスの透明化、効率的な組織運営、教職員一人一人の能力向上により協働性と機動性のある組織をつくる。</p>
	<p style="text-align: center;">3. 教育環境の充実</p> <p>教育資源の効率的な活用及び充実を進め、多様な学びの形を支援する。</p>	<p style="text-align: center;">3. 卒業生支援</p> <p>卒業後のキャリアや生活に寄り添う仕組みづくりを進め、卒業生の「私らしい」生き方を支援する。</p>	<p style="text-align: center;">3. 教育・研究成果の社会還元</p> <p>本学の教育資源を活用し、地域や社会の課題解決に取り組む。</p>	<p style="text-align: center;">3. DXによる業務の効率化と生産性向上</p> <p>DXによる業務効率化と、生産性の高い業務へのシフトを進める。</p>	<p style="text-align: center;">3. 入試制度改革</p> <p>真に伸びる素養のある学生を確保するための入試制度の改革を行う。</p>	<p style="text-align: center;">3. 大学院・学部・学科等の改組・新設</p> <p>建学の精神の下、社会のニーズに対応する研究科・専攻・学部・学科の改組・新設を検討、実施する。</p>

第2次中期目標と中期計画（詳細）

中期目標		中期計画	
I 教育・研究の充実	1 教育内容の充実	(1)	教育内容充実を図る仕組みづくり
		(2)	図書館の充実
	2 教学マネジメントの確立	(1)	研究科・専攻の「三つの方針」改定
		(2)	「教学アセスメント・ポリシー」の実質化
	(3)	学生参画機会の拡充	
	3 教育環境の充実	(1)	教育環境の充実
	4 研究の充実	(1)	外部資金採択率の向上
		(2)	研究成果の情報公表
		(3)	研究環境の整備
II 学生支援の充実	1 学生生活環境の充実	(1)	学生満足度の向上
		(2)	休退学予備軍への早期アプローチ
		(3)	奨学金制度の拡充
		(4)	学友会活動・クラブ活動の活性化
		(5)	学生支援センター（Shinjo Sport Station）の適切な運営
	2 キャリア支援の強化	(1)	1・2年のキャリア教育と3年からのキャリア支援との効果的な接続システムの構築
		(2)	「専門職」「総合職」就職に強いキャリア支援体制の構築
		(3)	外部団体や企業、自治体とのネットワークの拡充
		(4)	多様化する教員採用試験・学部化に伴う変化への対応
		(5)	GIGAスクール構想への対応
	(6)	「つながる」広報の未来化	
	3 卒業生支援	(1)	卒業生のキャリア相談体制の充実
		(2)	「卒業生ネットワーク」の拡充
		(3)	同窓会組織との相互理解の推進
III 社会連携の推進	1 学生主体の地域連携活動の推進	(1)	須磨キャンパス及びPIキャンパスにおけるボランティア活動の推進
		(2)	海外からの留学生及び研究者の受入れの促進
	2 国際連携活動の充実	(3)	質の高い派遣プログラムの開発
		(3)	国際交流事業の拡充
	3 教育・研究成果の社会還元	(1)	須磨キャンパス及びPIキャンパスにおける産官学連携の推進
		(2)	「女性活躍推進講座」の普及と促進
	(3)	高校－大学間の接続、連携と交流の促進	
IV DXの推進	1 DXによる教育の充実	(1)	教育効果を高めるデジタルツールと情報プログラムの普及と活用
		(2)	「manaba」を活用した教育効果向上と「朝日新聞e-learning」・「ライブラリー commons」利用促進による基礎力向上
		(3)	図書館におけるDXの推進
	2 DXによる学生サービスの向上	(1)	クラブ加入率の増加
		(2)	食堂等の充実（キャッシュレス決済等）
		(3)	各種事務手続きの簡素化
3 DXによる業務の合理化と生産性向上	(1)	各種手続き情報のデジタル化	
	(2)	コミュニケーションツールの利活用	
V 広報・募集力の強化	1 ブランディング確立と学園広報力強化	(1)	ブランディング確立と学園広報力強化
	2 志願者・入学者の安定的な確保	(1)	高大連携開拓の促進と維持
		(2)	入試ページ（HP）再構築
	3 入試制度改革	(1)	新しい総合型選抜の開発
		(2)	高大連携開拓の促進と維持
		(3)	新しいチャンネル開拓と入試制度の開発
VI 経営・組織力の強化	1 財政基盤の安定化	(1)	資金収支の改善
		(2)	保有資産の活用
		(3)	学校法人会計基準改正への対応
	2 組織力の強化	(1)	法人組織のガバナンス強化
		(2)	組織運営の効率化・合理化
		(3)	人材育成の高度化・人事体制の安定
3 大学院・学部・学科の改組・新設	(1)	文学部教育学科の教育学部化	
	(2)	学園全体の再編検討、全学科の定員充足、新学科設置	

2. 中期目標・中期計画に基づく 2024 年度の行動計画

I 教育・研究の充実

1. 教育内容の充実

(1) 教育内容充実をはかる仕組みづくり

- ・各学科から教育内容の充実についての課題を収集する。
- ・学生生活調査から教育内容についての課題を収集する。
- ・全学的な課題について教務委員会で検討し、全学的な取り組みの計画立案。

(2) 図書館の充実

- ・図書館ボランティアの活動をより活性化して、図書館利用の輪を広げていく。
- ・ビブリオバトルの活動を推進する。

2. 教育マネジメントの確立

(1) 研究科・専攻の「三つの方針」改定

改定を行うための方針（ガイドライン）を整え、各研究科・専攻に改定を指示す

(2) 「教学アセスメント・ポリシー」の実質化

「教学アセスメント・ポリシー」別表に記載の指標に基づく点検・評価を実質化すべく、関連データの利用環境を整える。

(3) 学生参画機会の拡充

学生参画方針の策定に着手する。なお、方針策定段階から学生の参加を検討する。

3. 教育環境の充実

(1) 教育環境の充実

- ・各学科から教育環境についての課題等を収集する。
- ・学生生活調査から教育環境についての課題を収集する。
- ・施設課と教務部で協議して改善計画を立てる。直ぐに改善できるものは行う。

4. 研究の充実

(1) 外部資金採択率の向上

- ・科研費獲得に関する研修実施及び外部資金公募情報の周知方法の改善

(2) 研究成果の情報公表

- ・「行吉学園教育・研究助成費」に採択された研究テーマの学内外への成果公表
- ・本学教員の研究成果の公表方法に関する検討

(3) 研究環境の整備

- ・委員会での意見集約、現状の課題の洗い出し

II 学生支援の充実

1 学生生活環境の充実

(1) 学生満足度の向上（学生生活調査における満足度 85%以上）

① パウダールーム等の充実に影響する設備等の充実

女性用品の設置

② 出身地域別のコミュニティの組織化

組織化に向けたトライアル実施

③ 食環境の充実

アンケート結果に基づく対応

④ 学生行事の充実

参加者増への仕掛け・検証

⑤ 連絡協議会の活性化

新形態でのトライアル実施

(2) 休退学予備軍への早期アプローチ

① 早期介入、早期対応の調整・実践

授業出欠データに基づく学科及び関係部門との調整・運営会議等での協議

② クラス担任の面接強化

追加面談の実施及び学生支援センター等との連携による早期対応

③ 外部専門機関との連携

既存連携機関との関係強化及び新規開拓・研修会・連絡会等での最新情報に基づくアプローチ

(3) 奨学金制度の拡充

① 学園奨学金に関する検証

学園奨学金（新制度）の検証、微調整及びアンケート実施

② 報奨型奨学金の導入

報奨型奨学金の導入に向けた関係部署との調整

③ 外部奨学金の開拓

外部奨学金に関する情報提供及び申請サポートの強化

(4) 学友会活動・クラブ活動の活性化

① 学生交流の機会を増やす等

交流機会の創出及び取り組み内容の検証

② リーダー研修の充実

クラブ活動に関するヒアリング

③ クラブ・同好会新設への支援及び強化クラブの設定

規約の改正・強化クラブの指定

④ 地域（近隣高校等）との連携強化

近隣高校等との交流推進（施設提供・学科との連携企画）

⑤ クラブハウスの充実（環境整備）

対応可能な優先順位をつけ順次対応

(5) 学生支援センター(Shinjo Support Station)の適切な運営

①運営状況の評価として学生の声を聴く機会を設ける。

学生へのヒアリング実施及び分析

②学生生活調査に学生支援センターに関する項目を追加し、適切な支援につなげる。

学生生活調査への項目追加及び回答結果の分析

③運営委員会の定期開催（ネットワークの構築）

運営委員会の定期開催及びネットワークの構築

2. キャリア支援の強化

(1) 1・2年のキャリア教育と3年からのキャリア支援との効果的な接続システムの構築

- ・1回生向けに「キャリア・教職支援・地域連携センター見学ツアー」を行う。
- ・2回生後期キャリア関連授業で「課題解決プロジェクト」を実施する。

(2) 「専門職」「総合職」就職に強いキャリア支援体制の構築

- ・教員とキャリアサポートセンター職員との合同会議を各学部単位で年に3回以上開催する。
- ・専門職就職・総合職就職を後押しする取り組みや、資格取得状況に関する情報を増やす。

(3) 外部団体や企業、地方自治体とのネットワークの拡充

- ・府県との就職支援協定を1件追加する。
- ・企業や事業所との交流を継続するとともに、今後の重点・方向性を検討する。

(4) 多様化する教員採用試験・学部化に伴う変化への対応

- ・情報集約と学生への情報周知徹底体制の確立のため、情報集約の一本化を図る。
- ・教職専門指導員の知識と実践力強化のため、外部研修会への積極的参加とセンター内での勉強会を行う。

(5) GIGA スクール構想への対応

- ・教員採用試験時にすでにICT実技試験の行われている教科から順次デジタル教科書を使用し、実践練習を行う。

(6) 「つながる」広報の未来化

- ・在学生と卒業生を「繋げる」ことを意識し、卒業生連携イベントの企画・実施を行う。また、その活動広報についても最新ツールの把握、活用など検討を行う。
- ・現任教員サポート体制の構築のため、卒業生窓口担当を設ける。

3. 卒業生支援

(1) 卒業生のキャリア相談体制の充実

- ・ビジュアル面も充実させて、見やすく利用しやすいようなホームページをつくる。
- ・両キャンパスに担当者を配置する。
- ・Sナビの求人情報を卒業生が活用しやすいように設定を見直す。

(2) 卒業生ネットワークの拡充

管理栄養士養成課程や看護学部、教職支援センターのネットワークの現状についての把握に努める。

(3) 同窓会組織との相互理解の推進

同窓会組織と交流の場を設けるよう努める。

同窓会組織の現状の把握に努める。

III 社会連携の推進

1. 学生主体の地域連携活動推進

(1) 須磨キャンパス及びPIキャンパスにおけるボランティア活動の促進

- ・1, 2 回生に向け「神女 support」の積極的な周知を行い、関心を持たせる。
- ・神戸市や兵庫県教育委員会との連携を密にし、地域の課題を探る。

2. 国際連携活動の充実

(1) 海外からの留学生及び研究者の受入れの促進

- ・6月にカリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校政治学部学生を2週間受け入れる。
- ・カセサート大学からの受入れの可能性について検討を継続する。
- ・研究者の受入れの促進。

(2) 質の高い派遣プログラムの開発

- ・新たな海外の大学との交流の開始分野別プログラムの構築準備。
- ・国際オンライン協働学習（COIL）を導入し、オンラインで海外の大学と授業等の開発準備。
- ・現在の協定校との交流内容の見直しの継続及び新協定校との交流プログラムの構築の検討。

(3) 国際交流活動の拡充

- ・グローバルセミナーの講師を選定する。
- ・実施したプログラムやセミナーの記録をデータで蓄積する。
- ・学生グローバルアンバサダー制度の構築準備の検討。短期受入れプログラム学生のために、全学部生を対象に応募者を募る。

3. 教育・研究成果の社会還元

(1) 須磨キャンパス&PIキャンパスにおける産官学連携の推進

- ・全教員の地域貢献活動の情報を収集し、地域連携活動報告書を作成してホームページで公開する。
- ・毎年10件以上のプログラムが稼働している状態にする。

(2) 「女性活躍推進講座」の普及と促進

- ・女性活躍推進講座の須磨キャンパス・PIキャンパスでの開催を目指し（次年度以降）、PIキャンパスで初実施する。
- ・参加者数は50名/回を目指す。

- ・内容、開催時間や周知方法を見直して広報活動に重点を置く。

(3) 高校－大学間の接続、連携と交流の促進

- ・協定締結を複数高校目指す。
- ・高校への高大連携と交流、及び接続に関する対応と促進

IV DX の推進

1.DX による教育の充実

(1) 教育効果を高めるデジタルツールと情報プログラムの普及と活用

- ・「数理・データサイエンス・AI リテラシー プログラム」の文部科学省への申請
- ・PC の必携化の 2 年目（大学のみ）
- ・学园内情報環境の整備の促進
- ・共通教養教育としての manaba のさらなる普及と活用
- ・入学前 e-Learning の普及と活用
- ・入学後 e-Learning の普及と活用、

(2) 「manaba」を活用した教育効果向上と「朝日新聞 e-learning」・「ライブラリー commons」利用促進による基礎力向上

- ・株式会社朝日ネット manaba 営業部との打ち合わせによるオンライン講習会の内容充実
- ・「朝日新聞 e-learning」への参加者増に繋げる戦略に向けた打ち合わせ
- ・ライブラリー commons の利用促進のための学生への広報と学習相談コーナーの活性化

(3) 図書館における DX の推進

- ・通常の授業の予習・復習、および卒論作成における図書館情報の利用状況を把握し、学生の声に即して改善点をあぶりだす。その後目標設定を検討する。

2. DX による学生サービスの質の向上

(1) クラブ加入率の増加

① 情報発信の強化

- ・ホームページの記載内容の改良及び精査

② 活動しやすい環境整備

- ・ハンドブックのリリース及び事務手続きの順次 WEB 化

(2) 食堂等の充実（キャッシュレス決済等）

①キャッシュレス決済システムの導入

- ・他大学の動向調査及び食堂業者等との調整及びトライアル実施

②食堂等、食環境に関する情報発信

- ・学生の声を反映させた仕掛けの実施及び学生へのヒアリングの機会創出・分析

(3) 各種事務手続きの簡略化

①奨学金業務の簡略化

- ・オンライン化・ペーパーレス化及び BPO の検討継続

②学生への案内の充実

- ・提携業者との調整・HP 等の改良、Q&A の試験実施

3. DXによる業務の効率化と生産性向上

(1) 各種手続き情報のデジタル化

- ・総務部での教職員向け手続きのデジタル化に向けて、打合せながらシステムを構築していく。

(2) コミュニケーションツールの利活用

- ・現状分析を進め、改善すべき事象の精査を実施する。

V. 広報・募集力の強化

1. ブランディング強化と学園広報力強化

(1) ブランディング確立と学園広報力強化

- ・募集広報のブランディングを大学案内企画時に設定
- ・今後の学部再編と連動させた大学ブランディングの企画立案

2. 志願者・入学者の安定的な確保

(1) 入試ページ再構築

- ・入試ページとキャンパスライフ要素（広報）の再構成の実施
- ・現行の大学HPとの情報すみ分けの実施

3. 入試制度改革

(1) 新しい総合型選抜の開発

- ・アカデミックインターンシップ（大学発の探究授業）企画立案
- ・アカデミックインターンシップと連動させる入試制度企画立案

(2) 高大連携開拓の促進と維持

- ・現在実施している須磨友が丘高校、須磨ノ浦高校のフォロー対応
- ・近隣高校の連携先開拓

(3) 新しいチャネル開拓と入試制度の開発

- ・短大「社会人総合型選抜（AO入試）」を企画立案・実施
- ・カレッジスポーツ、留学生についてはマーケット調査実施と学生課情報の収集

VI. 経営・組織力の強化

1. 財政基盤の安定化

(1) 資金収支の改善（支出抑制）

- ・経常費、臨時費、個人研究費、研究旅費、教育研究助成費等の支出見直し

(2) 保有資産の活用

- ・保有固定資産の活用検討と受取利息収入の増強

(3) 学校法人会計基準改正への対応

- ・学校法人会計基準改正即した帳票準備、マスタ設定及びR7年度予算書の作成

2.組織力の強化

(1) 法人組織のガバナンス強化

- ・2025年4月の私立学校法改正に向けて寄附行為及びに関連規則等の変更・改正を行い、法人組織のガバナンス強化と自律的な内部統制を確立する。

(2) 組織運営の効率化・合理化

- ・業務内容の棚卸し及び見直しを行い、業務運営の改善と効率化・業務の省力化に向けて各部署で活動を行う。

(3) 人材育成の高度化・人事体制の安定

- ・職員研修体系の整備を行い新しい各種研修をスタートさせる。また、新人事制度の定着に向けての研修開催やグループワークを計画実施する。

3. 大学院・学部・学科等の改組、新設

(1) 文学部教育学科の学部化

- ・文科省への学部設置届出・開設準備
- ・特別支援学校教諭免許課程実施に係る準備
- ・広報・入試の実施と2024入学定員充足
- ・須磨キャンパス特別支援教室等改修計画

(2) 学園全体の再編および新学科設置

- ・学部改組届出・開設準備
- ・新学部構想決定

3 法人の体制

I 設置する学校・学部・学科等（2024年度予定）

区 分	学部・学科等			入学定員	収容定員	予定数
神戸女子大学 大 学 院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	12
			後期	2	6	1
		生活造形学専攻	前期	6	12	3
			後期	2	6	0
		小 計			18	40
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	2
			後期	2	6	1
		英文学専攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	5
			後期	2	6	2
		教育学専攻	前期	4	8	0
	後期		2	6	2	
	小 計			24	56	13
	健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	8	6
看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	16	25	
		後期	3	9	23	
合 計				57	129	83
神戸女子大学	家政学部	家政学科		80	320	228
		管理栄養士養成課程		160	620	514
		小 計		240	940	742
	文学部	日本語日本文学科		60	240	168
		英語英米文学科		60	240	108
		国際教養学科		60	240	104
		史 学 科		60	240	146
		教 育 学 科		165	660	387
		小 計		405	1,620	913
	健康福祉学部	社会福祉学科		80	320	204
		健康スポーツ栄養学科		80	320	248
		小 計		160	640	452
	看護学部	看護学科		90	360	371
	心理学部	心理学科		80	240	265
	合 計				975	3,800
神戸女子 短期大学	幼児教育学科			40	120	51
	総合生活学科			40	140	95
	食物栄養学科			40	100	57
	合 計			120	360	203
幼保連携型認定こども園 神戸女子大学附属高倉台幼稚園				—	170	151
総 計				1,272	4,459	3,180

II 役員の概要（2024年4月1日予定）

（1）定数等

区分	定数	実数			任期	備考
		常勤	非常勤	計		
理事	8人	6人	2人	8人	4年	1号理事（神戸女子大学長）の任期は在職期間
監事	3人	—	3人	3人	4年	

（2）寄附行為の選任条項

（理事）

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

（1）神戸女子大学長

（2）評議員のうちから評議員会において選任した者 4人

（3）学識経験者のうちから理事会において選任した者 3人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いた時は、理事の職を失うものとする。

（監事）

第7条 監事は、この法人の理事又は職員（学長、教員その他の職員を含む。）又は評議員以外の者のうちから理事会において選任する。

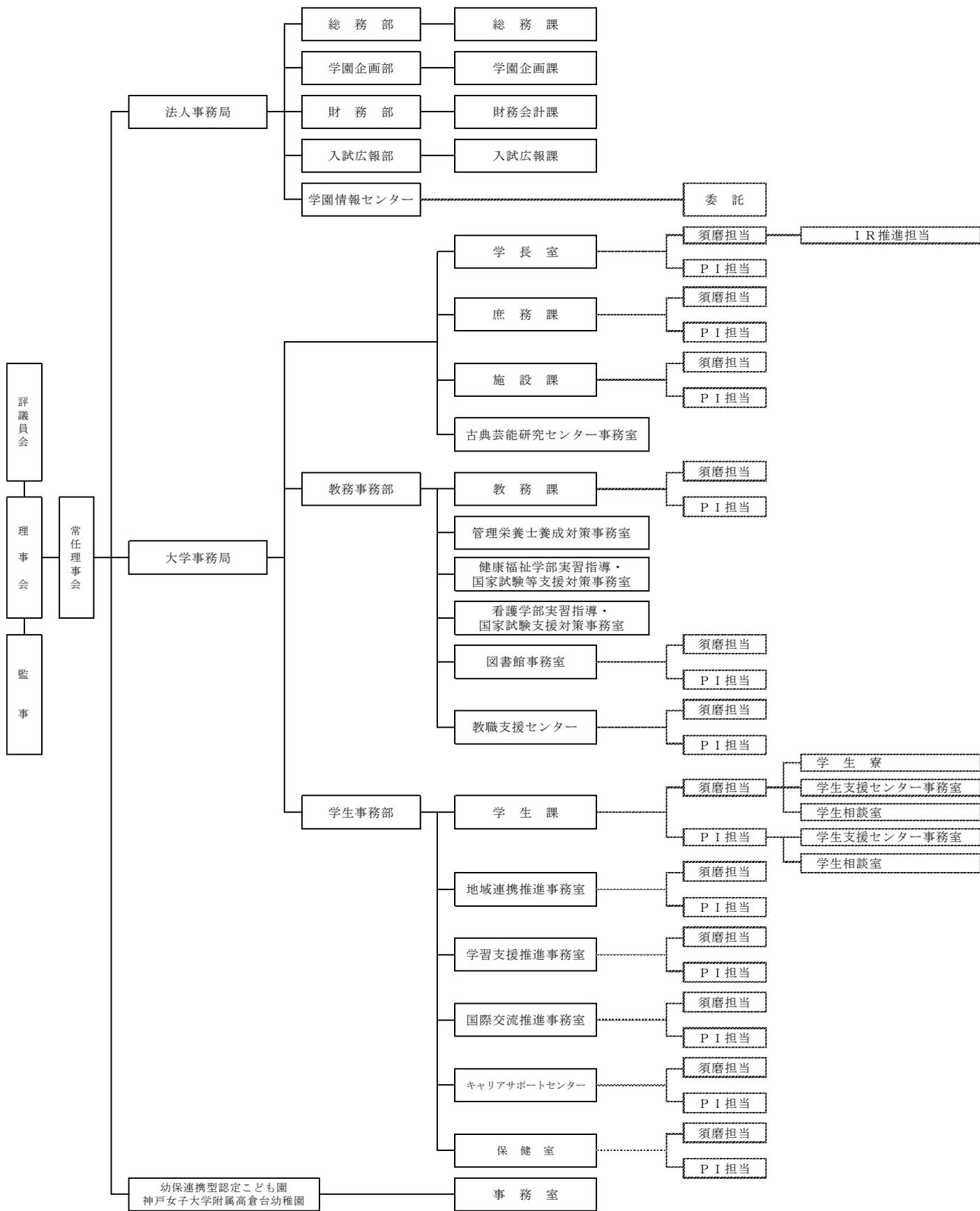
（3）役員一覧

区分	氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	選任条項
理事長	多畑 寿城	R05.07.01	(R06.04.01)	学識経験者	6-1-3
理事	栗原 伸公	H31.04.01	(R05.04.01)	神戸女子大学長	6-1-1
理事	今井 修平	H18.04.01	(R04.06.29)	評議員	6-1-2
理事	三宅 茂夫	R05.07.01	(R05.07.01)	評議員	6-1-2
理事	山西 哲也	R06.04.01	(R06.04.01)	評議員	6-1-2
理事	行吉 則子	R06.04.01	(R06.04.01)	評議員	6-1-2
理事	根岸 成直	H18.06.29	(R04.06.29)	学識経験者	6-1-3
理事	小川 清四郎	H30.06.29	(R04.06.29)	学識経験者	6-1-3
監事	横田 成樹	H26.06.29	(R04.06.29)	理事会選任	7-1
監事	亀井 尚也	H23.05.27	(R04.06.29)	理事会選任	7-1
監事	打越 信男	R03.06.29	(R04.06.29)	理事会選任	7-1

III 教職員の概要（2024年4月1日予定）

区分	法人本部	神戸女子大学	神戸女子短期大学	附属高倉台幼稚園	合計
専任教員数	—	190	29	13	232
専任職員数	8	79	6	4	97
計	8	269	35	17	329

(2) 事務組織





「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713